

2013年(平成25年)5月16日(木曜日)

日 刊



発行所 電波新聞社

東京本社
東京都品川区東五反田1-11
-15 千141-8715
☎03(3445)6111(大代表)

大阪本社
大阪市中央区北區3-2-25
(京阪淀屋橋ビル8階) 千541-0041
☎06(6203)3361(大代表)

西部本社
福岡市博多区博多駅前2-13
-23(扇寿ビル) 千812-0011
☎092(431)7411(大代表)

©電波新聞社 2006

FAシステム

リアルタイム3D変換装置

順大と帝京大医学部泌尿器科共同研究チームと開発

【松山】FAシステムエンジニアリング(松山市北藤原町、中村康則社長)と順天堂大学、帝京大学医学部泌尿器科共同研究チームは、マルチスライスCT画像のポリウムレンタリングソフトウェア「Foviana」からの映像を、外部の3DモニターにリアルタイムにLive3D表示、お

よび収録する「リアルタイム3D変換装置 FACC E-3DIOIPC」を開発した。順天堂大学大学院医学研究科泌尿器科の堀江重郎教授と帝京大医学部付属病院泌尿器科の磯谷周治講師、FAシステムエンジニアリングが共同開発研究していたもので、FAシステ

ムの3D技術がフルに活用されている。

リアルタイム3D変換装置は、MDCT検査実写データからの入力1920X1080iもしくは720pの画角で右目用と左目用のSide BY side方式で受信する。受信した映像は3D映像として3Dモニターに表示し、併せて3D収録も可能となった。3D収録はHD-SD

I(1920X1080 59i)収録が可能。

中村社長は「今後、各種メーカーのポリウムレンタリングソフトウェアに対応の予定。より高精細な3D画像を見ることにより、手術ナビゲーションとしての手術計画立案、カンファレンス利用、およびインフォームドコンセントの活用など利用範囲が広がる」と話している。